

講演会『厳島神社管絃祭と、三十八年振りの居管絃祭』を聴いて

2025.7.5 作成 森

5月20日に串戸市民センターで首記題名の講演会が開催されたので、興味本位で参加してきました。講師の話があちこちに飛んで、理解が追いついていけない所が多々あり、消化不良状態でした。誤解した部分もあるかと思いますが、脈絡なく一部だけご紹介します。

開催日時：5月20日（火）13時30分～15時

開催場所：串戸市民センター（参加者多数）

演 題：「厳島神社の管絃祭と、三十八年振りの居管絃祭」

講 師：中国新聞文化センター 船附 洋子 氏

I. 講演内容の一部（居管絃祭の部分のみ）

- ① 居管絃祭とは、旧暦の閏月が六月になった場合に管絃祭が二度あり、そのために、海上の管絃祭とは異なる厳島神社の高舞台上「居ながらの管絃」が執り行われるものである。
- ② 居管絃祭の執り行われる年
太陽暦と太陰暦（旧暦）では、年間で11日ずれがあり、太陰暦では3年に一度閏月がある。今年8月10日に居管絃祭が執り行われるが、昭和62年8月11日以来の38年ぶりとなる。近年では、明治25年、昭和5年、16年、35年、54年、62年だった。
- ③ 居管絃祭の行事
高舞台上に三隻の舳先が神殿に向かって設置されて御座船に見立てられ、その上に屋形を組んで船管絃と同じ飾りをする。御鳳輦は乗せない。（現在、三隻の舳先は三翁社に保管されている。）管絃の曲は、船管絃祭と同様の13曲が奏でられる。高舞台の周りには12カ月の造花を飾る。正月が松、二月が梅、三月が桜、四月が山吹、五月が花菖蒲、六月が若竹、七月が萩、八月が朝顔、九月が桔梗、十月が菊、十一月が紅葉、十二月が水仙。
- ④ 情景
神社の回廊には釣灯籠や提灯に灯がともり、潮が満ちた海には社殿が浮かぶ。月明かりが波に揺らぎ、管絃の曲を奏でて、大鳥居を背景にした実に優雅な情景である。

以上